

# 音の出ているもの

## 実験概要

黒いビニール袋の上に、塩をまき、その上で声を出して、塩が振動する様子を観察する。

## 実験の目的

音が出ている物は振動していることを理解する。

## 実験材料

- 黒ビニール袋
- 塩
- ボール
- ビニールテープ
- はさみ



## 実験準備

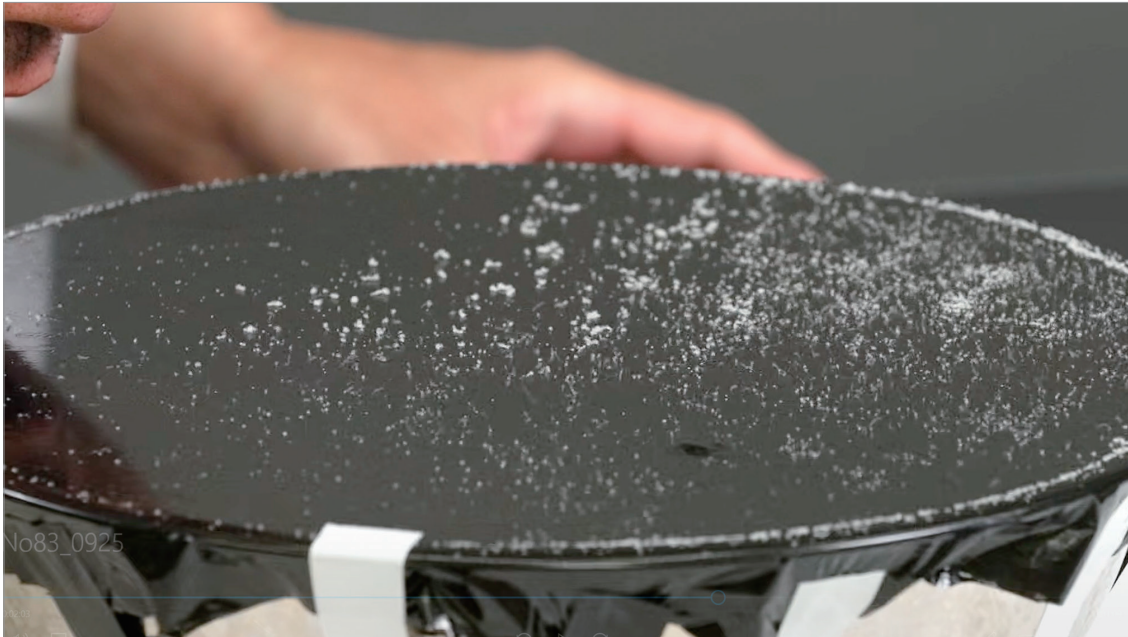


💡 黒ビニール袋をとめるときは、均等に力がかかるようにする。

💡 塩は、ビニール袋の全面に、均一にまく。

## 実験手順

- ①音をだしたときの塩の様子
- ②小さな音を出したときの塩の様子
- ③音を少しずつ大きくした時の塩の様子



## 実験結果と実験からわかってほしいこと

- 音が出ている時は、塩は振動した。
- 音が出てないときは振動しなかった。
- 音をだんだん大きくすると振動もだんだん大きくなった。
- ギターや太鼓など音の出るものは振動している。
- その振動が何かを伝えることによって、遠くまで音が届く。
- 音の出ている物をいろいろ触ると、(それ自体が)振動していることが分かる。

## 発展

- ★物が振動すると音が出る。
- ★声は肺から空気を外に出す時や肺に空気を取り込む時にのどにある声帯が振動することによって出る音である。声が出ているときにのどに触ると、振動していることが分かる。
- ★ギターや太鼓以外にも、身の回りの音を出すもので振動しているものを探してみよう。